２０２６年（令和８年）３月８日　日曜日

デーリー東北　１６面　掲載

青森県勢

三井頂点

菊池男子5000、金井女子3000 2位

男子1500

スピードスケート　長根ファイナル

スピードスケートの今季国内最終戦となるYSカップ長根ファイナル強技会が7日、YSアリーナ八戸で開幕した。青森県勢では、男子1500㍍の三井覚太（青森県強技力向上対策本部）が優勝。男子5000㍍の菊池健太（同）、女子500㍍の金井愛未（八学大）がそれぞれ2位に入った。

同種目にはミラノ・コルティナ冬季五輪の女子団体追い抜きで銅メダルを獲得した野明花菜（立教大）が出場し、4位に入った。

最終日の8日は同会場で、男女の1000㍍と3000㍍、男子の1万㍍を行う。

（丹代裕太）

【男子】

▽500㍍　①石上直樹（高愛建設）35秒68②木島一（オカモトグループ）35秒73③久保一（同）35秒74（青森県強技力向上対策本部）⑤宇賀神一（宮城県スポーツ協会）⑥丹田一（長崎建設）⑦大沢太一（長崎建設）⑧小沢直輝（八戸高）

▽1500㍍　①三井覚太（青森県強技力向上対策本部）1分49秒68②船橋一（日本大）1分50秒32③吉澤一（同）1分50秒71④菊地一（同）⑤2保一（オカモトグループ）⑥松田一（長崎建設）⑦佐藤雅（日本大）⑧木村一（長崎建設）

▽5000㍍　①菊池健太（青森県強技力向上対策本部）6分29秒33②吉澤一（東京ガススポーツ協会）6分39秒39③松本一（ボンダ・ローズ）④奥駒一（日産）⑤宮崎一（金輪建設）⑥大沢太一（長崎建設）

【女子】

▽500㍍　①伊藤真奈（全日本）39秒60②新井美来（八学大）39秒80③長崎一（東土建）39秒80④藤崎一（明大）⑤大倉本奈美（フライアー大）⑥金澤一（立教大）

▽1500㍍　①長田茉子（神奈川）2分16秒16②田渕一（東田病院）2分36秒07③千葉一（八戸高）④高橋愛（北大）2分47秒87⑤佐藤一（長崎建設スポーツ協会）⑥木村咲帆（八学大）⑦吉澤一（総合スポーツ協会）

▽5000㍍　①ウィリアムソン・レミ（小樽総研）7分26秒69②佐藤一（ダイドスケート部）7分28秒89③吉澤一（同）7分31秒32④東一（北東大）⑤長岡一（クライアックス）⑥小野寺一（同）⑦木村団栄（八戸高）

菊池 滑りに安定感

○…男子5000㍍では、菊池健太（青森県強技力向上対策本部）が地力を見せて凱V。6分29秒33の好タイムを刻み、「目標通り6分30秒を切れて良かった」と胸をなで下ろした。

レースでは、他の選手が徐々にラップタイムを落とす中、菊池は2600㍍時点の31秒01を除いて全て30秒台と抜群の安定感を見せ、終盤には先走の2選手を抜き去ってフィニッシュ。

「全体的にもう一段階速くできたと思う。来シーズンの課題だ」と向上心もぞかせた。8日の10000㍍では、前回大会で出した13分21秒35の自己ベスト更新を目指す。「13分10秒台を目標に、落ち着いて進めたい」と表情を引き締めた。

三井 タイムに不満

○…男子1500㍍の三井覚太（青森県強技力向上対策本部）は1分49秒68で2連覇を果たしたものの、目標タイムの1分47秒台には届かず「自分らしい動きができなかった。絶望だ」とため息をついた。

長距離から中距離に転向した今季は、2月のあおもり四スポで頂点に立つなど成長を実感。目標とするW杯出場への足がかりにしたいと、今季ラストとなる今大会への出場を決めた。

この日のレースでは、硬質なリンクにブレードをかませ、加速するプランが功を奏して2位に2秒以上の差をつけた。その一方で、目標タイムに到達できなかったのは、スケーティング技術の不足にあると自己分析。

「実際のレースでしか分からないことも多い。修正点は見つかった」と振り返った。

8日の1000㍍は1分9秒台を目指す。「今日の結果を見ると難しいかもしれないが、自己ベストを更新したい」と意気込んだ。

金井「悔しい気持ち」

○…女子500㍍の金井愛未（八学大4年）は39秒65で2位。今季限りで現役を引退する手応えが、目標の38秒台にも届かず「悔しい気持ちだ」と表情を曇らせた。

元々は1000㍍が得意だが、昨季から500㍍のタイムが上向き始めたという。この日は苦手なコーナーへの入りのタイミングを見極め、安定したスプリントで回走。手を突き放した。

1位とのタイム差は0・34秒差。「500㍍で目標を達成できなかった悔しさを明日のレースに生かしたい」と闘志を燃やした。

「500㍍でコツを掴めるのは難しい。（優勝者と）競っていたとは言えない」と厳しい口調で振り返った。

仙台市出身で、小学3年から6競技を続けてきた金井。8日の1000㍍がラストレースとなる。

【女子500㍍】39秒65で2位となった金井愛未（八学大）

デーリー東北新聞社提供